

郷土の宝を未来へつなぎ、世界に通用する子どもたちを育てよう。

金印倶楽部 ニュース



2018.3 vol.6

発行/NPO法人金印倶楽部 事務局:福岡市中央区今泉 1-10-21-901 TEL:092-737-5430

2月23日 金印出会いの記念日

■住吉小・中学校で金印レプリカ贈呈式

午後 2 時から住吉小・中学校で金印レプリカ贈呈式を行いました。今回は小学5、6年生に加えて初めて中学 1、2、3 年生も参加しました。



神田紅師匠と福岡紅塾・金印亭による「国宝・金印物語」に総勢約 400 人の生徒たちの瞳と耳は集中。金印レプリカを触って大喜びでした。

■チャリティートークに、もっと聞きたい!の声

神田紅師匠の講談は「杉山茂丸ー明治を動かした陰の男」。茂丸の生涯と息子・夢野久作、孫・龍丸の「杉山三代」を紅さんがドラマチックに語り、郷土の知られざる巨人が甦りました。



講演は中村大学教授の占部賢志氏。「知ってほしい日本人の心」と題して、薩長連合の仕掛け人は坂本龍馬ではなく、筑前勤王党の月形洗蔵で、舞台は太宰府天満宮の参道の宿だったことを力説。あちこちから時間切れを惜しむ声が。

特集「立志式」の支援活動

■2月1日(木) 野間中学校

講師の陣川桂三氏の演題は「志を立てるとは」。「天は二物を与えず、といひます。ということは、必ず一物は与えてくれるということです。「志を追い求めるのも立派な志です」と話されました。



生徒の感想文を紹介します。

「私は『志』を持っていないので、陣川さんにどうすれば志を持てるか聞いてみると、『無心』でただひたすらに一生懸命に取り組めば、道は開けると答えてくださったのがうれしかった」

■2月2日(金) 舞鶴中学校

講師は JR 九州相談役の石原進氏。演題は「日本を担う皆さんへ」。どの講師の方もそうですが、石原氏はこの日を楽しみにしていました。



終戦の昭和 20 年 4 月に生まれて、子どものころは貧しかったこと。焼け跡から立ち上がった先輩たち。大学受験で浪人、国鉄時代、JR 九州の創業、さらに人口減少社会、国際化の進展など経済や社会の変化に触れながら、心構えや必要な能力についてわかりやすく話されました。生徒たちはたくさんの「贈り物」をもらったようです。

続特集「立志式」の支援活動

立志式は3学期後半の2月がピークです。学校によっては「立志式」の式典とは別の日に、「立志講演会」を希望されるところもあります。

「立志式」の前に実施することで、生徒たちの志の意識を高めたいとの理由からです。

また須恵中、須恵東中のように、福岡市以外でも、私たちの「立志式」支援の様子を視察して、新しく始めた学校も出てきました。

■2月9日(金) 教育大附属福岡中学校



講師は同校の第4期卒業の元自民党副総裁・山崎拓氏。金印レプリカの贈呈者は第5期生の出光芳秀金印倶楽部会長でした。お二人の母校です。

演題は「可能性を信じること」。中国の大連で生まれ、附属中学に入学した昭和24年は新憲法が公布(同22年)されたばかりでした。

中学校にも民主主義の波が来て、生徒投票で国会に例えると衆議院議長に選ばれたこと。片目を失明して、手をつけられないガキ大将を恩師がたたき直してくれた。大学でも柔道に打ち込み、自分に年間100冊の読書を課した。衆議院選に初出馬して落選、浪人生活に耐えたのは友情と可能性を信じることだった。

継続は力なり。友だちや読書の大切さなど、先輩に愛情と期待のエールを贈っていました。

■2月15日(木) 住吉中学校

講師は福岡大学教授で元中学教師の菊池祐次氏。演題は「志を立てる君たちへ」。講演というよりも特別授業の雰囲気でした。

炭鉱の町・田川で生まれ、よくケンカをしたとか。

子どものころの最初の志は「大きくなったら母親を守る」ことだったそうです。

大学は法学部。しかし、就職シーズンを迎えて方向転換。中学生のときに好きだった先生のような教師になりたいくて、2年間も浪人したとか。



生徒たちが湧いたのは、4人グループに分けて、「AI(人工知能)やロボットが発達して消える仕事は何か」、「消えない仕事は何か」という質問をしたとき。「壊れたAIを直す仕事」などの回答に笑い声が上がリ、私たちも勉強になりました。

■2月22日(金)

須恵中学校、須恵東中学校

須恵町立中学2校合同の初めて立志式でした。会場はアザレアホール須恵。生徒4人が「立志」を発表。それぞれ助産婦、言語聴覚士、絵本作家、建築士を目指す決意を堂々と表明しました。



講師は九州電力相談役の松尾新吾氏で、演題は「やぶこうじ」。目立たなくても一生懸命にやっていたら、その姿を見ていて、必ず評価してくれる人がいるという話です。

新入社員のところは佐世保の借家に両親を引き取って、非常に貧しい状況だった。社会に出たら学校のように試験はない。しかし、もっと厳しい試験がある。先人の言葉を紹介しながら、立志の大切さを強調されていました。

※支援は3月1日新宮中学校、3月12日城西中学校でも実施されました。